

合格体験記

氏 名:

担任講師: 大谷(国語), 生稻(英語)先生

在籍校舎: 稲門学舎 王子 校

進学先

都立城東高等学校

その他
合格校

私立淑徳東鴨高等学校(選抜コース、併願)

*入試に役立った先生のアドバイス・勉強方法や、合格につながった体験・エピソード等を書いてください。

私は、中学二年の12月頃に、この塾に入りました。スタートダッシュでいえば、周りに比べて遅かった時期です。

入塾当初は、学校以外で勉強する機会・意欲は全くありませんでした。学校内のテストの勉強を、1週間前程から行っていたくらいです。それを除くと、部活から帰ってきて、ご飯を食べ、風呂に入り、ゲームをする、という堕落の日々を過ごしていました。当時はまだ中学二年で、受験意識がなかったゆえの生活だったと思います。ですが、塾がきっかけで、少しずつ悪い意識が薄れていきました。

平日スコマの通常授業に加え、土曜日のスタサタでの勉強の機会が新たに加わったからです。家庭での学習時間は大きく変動していなかったものの、日常で勉強をするという習慣が、強制的に身に付きました。

そして、中学三年になり、本格的な受験活動が始まりました。1番の受験意識の変化のきっかけは、夏期講習でした。通常授業より圧倒的に授業頻度が多く、勉強時間が増えました。それゆえ、勉強を長い時間行うことへの抵抗が少なくなり、家庭での勉強が自然と出来るようになってきました。受験に合格した今、振り返ってみると、この家庭学習への姿勢の変動は、本当に大切なことだったと実感しています。

これから日常の勉強の習慣と、家庭学習の取り組みの変化は、稲門学舎に入って一番よかったと思うことです。塾に入らず、自身のカリキュラムで意識を変えることは、難しいことだと思います。稲門学舎に入ったための結果となりました。

また、この塾に入ってよかったことがもう1つあり

ます。それは、勉強方法の確立です。稲門学舎の授業では、一人一人のカリキュラムが存在している中で、わざわざ自分で勉強の自己分析をし、教材を買う必要がなくなりまして。よって、決められたカリキュラムの中で、苦手だと自覚のある部分だけを集中的に補完する二とが容易になりました。このことで、塾と自分の意思を連携させ、効率のよい勉強方法が見つけられました。

先に述べたとおり、私は周りの友達よりも入塾が遅かったです。しかし、稲門学舎をまっかけで、都立推薦合格という形で、受験活動を終えられました。それは、塾と自身の活動も上手く両立させられたからです。塾の先生や、両親に、両立させてくれる環境を作ってくれた二とに感謝します。

本当に、ありがとうございました。